

SEED

SWITCH ON CREATIVE MIND FOR EDUCATORS

CREDUON

表紙イラスト

正木賢一 / Kenichi Masaki

NPO法人 東京学芸大こども未来研究所 理事東京学芸大学 准教授



Contents

はじめに

POWER FOR TEACHERSについて

(2021年5月8日)地域の課題を受け止め、生徒が創る学校へ。学校の役割を見つめ直す。

(2021年9月24日) 「動き(変容)」が学校の「硬直化」を緩める。 夏休みは、学校マネジメントのヒントを求めて企業インターンへ。

(2022年1月28日) 防災の調べ学習。明日が来ることの尊さを学んだ。

おわりに

A r c h i v e

03

02

の安全・健康管理に配慮されながらwithコロナ時代を子どもたちの成長を願い、日々奮闘されています。 新型コロナウイルス感染症の終息が見えない環境下、教育現場においても大きな変化がありましたが、先生方は子どもたち

は、アーカイブよりいつでも閲覧が可能となっております。 に直面されている全国の先生を何とか応援したい、教育活動の力(POWER)に変えてほしいとの願いから制作した HUMANの記事からそんな学校の先生方の応援や活動支援となる記事を抜粋し、 「POWER FOR TEACHERS」につきましては、今年の3月末で定期更新は一旦停止となりますが、過去の配信情報 て制作し、 「POWER FOR TEACHERS」からは、多くの先生方から反響をいただいた記事とあわせてアニュアルレポートとし 今回SEEDの第5弾は 今年もまたご自宅のオンライン環境でもご活用いただけるよう、WEB版でお届けすることになりました。 「CREDUON FOR TEACHERS」に掲載されたVISION、 また新型コロナの影響でかつてない困難 ELEMENTS

済会の会員の先生方が利用できる日教弘クラブオフ(福利厚生サービス)の1つのサービスとして、東京学芸大学・東京学芸 大こども未来研究所・ジブラルタ生命が共同して先生の生の声を参考に企画・制作したサイトです。 2022年4月からは新たに「先生応援サイト」がスタートします!「先生応援サイト」とは公益財団法人日本教育公務員弘

配信するなど、先生方のオンオフを応援するサイトとなっておりますので是非ご期待ください た「がんばれ新人先生!」、大人になった今でも忘れられない生きる力をくれた先生の言葉「忘れられない言葉がある」を毎月 すぐに役に立つ「授業の助っ人」を随時動画で配信していくほか、先生のあるある話や先輩方からのエールの言葉を掲載し



松本 哲 執行役員



「POWER FOR TEACHERS」 について

「POWER FOR TEACHERS」(https://power.creduon.jp/) は、コロナ禍における教育活動について、全国の先生方のお役に立てる情報を発信すべく、2020 年 5 月よりスタートしました。

「POWER FOR TEACHERS」では、5つの"ROLE"を設け、それぞれの角度から情報の発信を行っています。



コミュニティをつなぐ

全国の先生が集い、意見交流をしているコミュニティを紹介



資料をつなぐ

全国の先生もしくは学校等が作成した資料を紹介



スクールデイズチャレンジ

先生のみならず、社会全体で教育活動を支えていくことを目的としたSNS企画



声をつなぐ

全国の先生の取り組みや想いを伺ったインタビュー記事を紹介



リアルをつなぐ

YouTube配信を利用したトークイベント企画

片 畄 巧 先 生

学校 の役割を見つめ直す。

地域 の課題を受け止め、 生徒が創る学校へ。

めの片岡巧先生へのインタビュー。 広島県立加計高等学校(広島)にお勤

- ・地域の抱える課題を見つめ、どのよう に解決していくかというマインドを醸
- LGBTQ+の視点を取り入れ、 は選択制に。
- 学校の公式SNS を生徒に更新させ ることで、メディアリテラシーの学び



ています。

に勤めています。勤続7年目で、担当教科は地歴・公民科、進路指導主事も務め 片岡先生:私は現在、広島県北西部の安芸太田町にある広島県立加計高等学校

対象になりかねない状況が続いています。

が進んでいます。そのため本校は1学年1クラスで、何年も前から統廃合の検討

安芸太田町は人口6000 人弱の小さな町で、広島県の中で最も少子高齢化

小田:広島県の基準では、全校生徒数が80名を下回ると統廃合の検討開始、2年 連続下回ると統廃合の対象となるとのこと

地域の方々から、本当にたくさんの支援をいただきながら運営をしている状況 片岡先生:そうした危機的な状況の中でも、この地域に学校を残したいと願う

です

そもそも地元の子どもたちの人口減もあったことから、全国からの生徒募集も 行い、現在では全校生徒の約2割が県外生となっています。 高一貫校というシステムを進め、地域の中学校との連携を開始しました。加えて、 そこで、まずは地元の子どもたちに入ってもらえる学校になるべく、連携型中

小田:地域の方々の思いも背負い、生き残り戦略が花開いているように思いま

現在では、全校生徒の約2割が県外生とのこと。御校への入学動機は何があ

は、片岡巧先生にお話を伺ってまいります。

はじめに、自己紹介をお願いします。

小田:5月も末となり、運動会を終えた学校も多いのではないでしょうか。今日

◆地域の未来を創る、学校の役割。

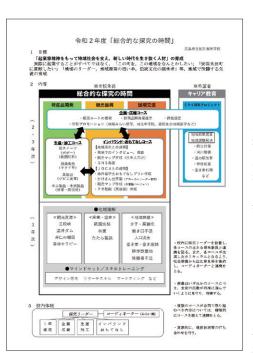
るのでしょうか。

ることができます。毎年全国大会にも出場し、実績を残しています。たる顧問の先生ご自身も現役国体選手であり、とてもハイレベルな指導を受け片岡先生:本校の特色の1つとしている射撃部の存在が大きいです。指導に当

支援する他、外国籍の生徒の受け入れも積極的に行っています。米日系人高校生など)が来校して交流を行い、ハワイの姉妹校への短期留学を間100名程度、国籍も20か国以上の外国人の方々(主にJICA研修生や南いと思いもあり、本校では多くの国際交流の機会を設けています。例年、概ね年全国第1位の移民県であり、また生徒たちにも外の世界に目を向けてもらいたもう1つは、国際交流です。広島県は歴史的に多くの海外移住者を輩出した

いる点が、とても魅力的に思いました。しようとする精神を醸成し…」という、「起業しようとする精神を醸成し…」という、「起業しようとする精神」に言及されて小田:御校の学校要覧(令和2 年度)を拝見し、ミッションの2つ目に「起業

なっています。しかし、ただ単純に会社を興すことだけを指して起業家精神に片岡先生:少子高齢化の進んでいる地域では、やはり雇用創出が重大な課題と



代を生き抜く人材』の育成」を目標に進めてきました。間」の改革に着手し、昨年度は「『起業家精神をもって地域社会を支え、新しい時全校生徒に取り組ませています。具体的には一昨年度から「総合的な探究の時ます。そうしたものがこれから先、この地域での生きる力になっていくと信じて、て行動する時のマインドこそ起業家精神と関係の深いものであると考えてい言及をしているわけではありません。地域の課題を課題として捉え、解決に向け言及をしているわけではありません。地域の課題を課題として捉え、解決に向け

発想です。 えで、いま生徒たちに何を提供し、何ができるようになるべきか、とても大切なえで、いま生徒たちに何を提供し、何ができるようになるべきか、とても大切なを感じます。地域の今の課題と、これから起こり得るであろう課題を見据えたう小田:学校の役割として、地域の未来を創る方向へしっかりと向いていること

「信頼」と「知恵」で最新の課題を乗り越えていく。

すでしょうか。になっているように感じています。御校での「多様性」の育み方について伺えまになっているように感じています。御校での「多様性」の育み方について伺えま小田:加計高等学校での様々な取り組みを拝見すると、「多様性」がキーワード

校ではそのような生徒も受け入れるという前提で体制を整えています。本た。町外から来る生徒には過去に不登校の経験がある子も少なくありません。本な子どもでも、間口を広くして受け入れるという前校長の強い思いがありましな子どもでも、本校で自分自身を変えたいという思いがあるのならば、どんな子どもでも、間口を広くして受け入れるという前校長の強い思いがありました。その上で、前校長が掲げていといけないというベースとなる課題がありました。その上で、前校長が掲げていといけないというベースとなる課題がありました。その上で、前校長が掲げていといけないというべースとなる課題がありました。その上で、前校長が掲げていといけないというでは、

じています。このことも前校長がずっと言い続けてきたことであり、また教職員生徒たちが社会に出た時により人生を豊かにする力を育めるのではないかと感す。しかし、学校は背景の異なる生徒たちが集まる場でもあるので、そもそも1す。います。学校は、ともすると1 つの型にはめ込んでしまうところもありまれえて、常日頃から生徒たちには「ダイバーシティ」、「多様性」について話を加えて、常日頃から生徒たちには「ダイバーシティ」、「多様性」について話を

識が前提ですので、違いを受け入れる空気というのは学校としてもすでに自然 な雰囲気になっています。 の間でも共通認識をもてていることでもあります。「みんな違うんだ」という意

景をもつという、「みんな違う」という意味での多様性は、今日的に重要な考え方 多国籍という意味での多様性もありますが、そもそも生徒一人一人が異なる背 小田:御校には外国にルーツのある生徒も在籍しているとのこと。そういった

御校では制服にも特徴がおありとのこと

り替えました。というのも、この辺りは寒い地域なので女子生徒からもスカート ことが理由です。 の切り替えと同時に、学校としてもLGBTQ+ の発想を取り入れようとした が寒いという声があったこと、また世の中の流れも変わってきているので、制服 片岡先生:3年前に制服を変更したのですが、そのときに制服を「選択制」に切

選びたくても選べない見えない社会課題があることに気づいていったようです。 異の目で見られたりするなどの様々な経験を通して、LGBTQ+の人たちが 人的な興味が着用のきっかけのようですが、身につけていくなかで周囲から奇 実際に男子生徒でスカートを履いている子もいます。この生徒については個

さっている印象でしょうか 小田:地域の人たちは、御校の多様性に係る取り組みについて受け入れてくだ

片岡先生:誰もがすべて受け入れてくれているわけではないと思います。ただ 方々にも常々発信してきました。そうして長年かけて築いてきた学校に対する 加計高校は社会人として必要な多様性を育てているんだということを、 信頼感が地域との教育協働の鍵になると感じています。 、地域の

片岡先生:たくさんありますが、わかりやすいところでお話すると、年間30回程 小田:ここで、地域との具体的な連携事例について、教えていただけますか

> ことから、地域の方からも頼りにしていただいています。 に参加させています。日ごろから地域のために加計高校の生徒が活動している 度 、地域の様々なイベントや伝統行事に生徒たちをボランティアとして積極的

例えば、役場の方に講師をお願いしたり、地域商社から地域の課題を共有いただ いるのではないかと思います たりしています。こういった取り組みが総合的に地域との信頼構築に寄与して いたり、あるいは業者の方や専門家の方をつないでいただいて商品開発を進め 探究の時間」では、授業の一環として地域課題に取り組む活動を展開しています。 他にも毎年4月には「花いっぱい運動」として地域に花を配る活動「総合的

用 師費も自治体負担で運営されています。生徒は、平日は学校で補習や自習室の活 また公営塾との連携も進んでいます。公営塾は、町内の公共施設を利用し、 、土日は町の公営塾を利用するといった連携です

小田 口の広がりはとても大きなものがあると思います。 への生徒派遣などにも取り組まれているとのこと、在学中の生徒たちの関係人 :地元との連携の他にも、熊本県天草市への生徒派遣、ハワイにある姉妹校

うか 響は大きかったのではないのでしょ ると、今回の新型コロナウィルスの影 でに各所との連携をされているとな 素朴な質問なのですが、それほどま

範囲を常に見極めながら活動は継続 たのですが、地域の清掃など、可能な ント自体の開催がなくなってしまっ 片岡先生:地域イベントなどはイベ しました。

ら、ブルーライトアップを大規模に行 メッセージを出したいということか 特に去年は医療従事者への感謝

10代男性

2020年8月16日に行われた医療従事者への感謝のメッセージを 込めたブルーライトアップ

外とのつながりを保つ努力を続けてきました。でも広報活動をしたところ、リーチが2万件にまでなりました。そのような形でたため、YouTubeを使ってすべてオンラインで配信を行い、Facebook町内の温浴施設をライトアップしました。ただお客様を呼ぶことはできなかっいました。計3回で、1回目は校舎を、2回目は町内にある温井ダムを、3回目はいました。計3回で、1回目は校舎を、2回目は町内にある温井ダムを、3回目は

あって取り組んでいるところです。 でいますが、なんとかこのコロナ禍を乗り越えていこうとみんなで知恵を出していますが、なんとかこのコロナ禍を乗り越えていこうとみんなで知恵を出しの研修生の方たちとはオンラインでの交流会も実施しました。他にも色々行っの研修生の方たちとはオンラインでの交流会も実施しました。他にも色々行っの研修生の方たちとはオンラインでの交流会も実施しまが、集内国際課と連携しながら、海外国際交流もなかなかできない状況でしたが、県の国際課と連携しながら、海外国際交流もなかなかできない状況でしたが、県の国際課と連携しながら、海外

◆生徒主体で創る学校

報公開の体制についても教えていただけますか。小田:御校の取り組みについて、多くをネット上で拝見することができます。情

りと、責任感をもって発信してくれていて、メディアリテラシーの勉強にもなっ使って発信しますので、そのような視点に立って記事を書いたり写真を撮ったては、昨年からFacebook、Twitter、Instagram、LINE公式アカウント、YouTubeの5つについて、学校の公式アカウントを一気に開設しました。開設時は教員が更新していたのですが、昨年の6月からは生徒に更新しました。開設時は教員が更新していたのですが、昨年の6月からは生徒に更新にました。開設は、所の上述を表現します。SNSについ職からテレビ局や地元新聞社にプレスリリースを出しています。SNSについ職からテレビ局や地元新聞社にプレスリリースを出しています。SNSについ職が、手術のので、そのような視点に立って記事を書いたり写真を撮った。

どのような内容の授業になるのでしょうか。小田:もう1つ気になったのは「社会へのかけはし」という授業ですが、これは

ています

作った科目です。ありましたので、それならば「進路」をテーマとした授業を設けようと4年前にありましたので、それならば「進路」をテーマとした授業を設けようと4年前に身が進路に向けて考えたり、活動したりする時間が不足しているという課題が片岡先生:「社会へのかけはし」は本校の独自科目です。本校では、生徒たち自

いて生徒たちに考える機会を与えています。 10月頃までは進路選択やインドやスキル、マナー等も学ばせるという点です。10月頃までは進路選択や本社会人の身だしなみ、〇〇DAループやPDCAサイクルについても教えています。 10月頃までは進路選択や本社会人の身だしなみ、〇〇DAループやPDCAサイクルについても教えています。 10月頃までは進路選択やかます。 10月頃までは進路選択やかは、11月以降は社会に出た時に必要になることを中心に教えています。 11月以降は社会に出た時に必要になることを中心に教えています。 11月頃までは進路選択やないます。 11月頃までは進路選択をないます。 11月頃までは進路選択やないます。 11月頃までは進路選択やないます。 11月頃までは進路選択やないます。 11月頃までは進路選択やないます。 11月頃までは進路選択やないます。 11月頃までは、11月頃は、11月頃までは、11月頃は、

実際の活動が教員主体なのか、子ども主体なのかが気になりました。小田:ここまで、御校の取り組みについて伺っていると、計画があまりに緻密で

という意識を育てることが大切だと考えています。という意識を育てることが大切だと考えています。自分たちで創っていくんだ善方法を考えさせる。そして再びチャレンジさせる。自分たちで創っていくんだいます。生徒を信じて任せてみる。失敗したらなぜ失敗したのかを考えさせ、改めます。生徒を信じて任せてみる。失敗したらなぜ失敗したのかを考えさせ、改めます。生徒を信じて任せてみる。失敗したらなぜ失敗したのかを考えさせ、改めます。生徒を信じて任せてみる。失敗したらなぜ失敗したのかを考えています。という意識を育てることが大切だと考えています。

限りです。

「生徒たちは先生方がご準備されたたくさんの機会の中で、多様な体験をし、感生徒たちは先生方がご準備されたたくさんの機会の中で、多様な体験をし、感小田:「生徒主体で創る学校」が、まさにポイントなのだと拝察しました。

◆全国の先生方へのメッセージ

小田:最後に、全国の先生方へ一言メッセージをお願いします。

めてきました。めてきました。

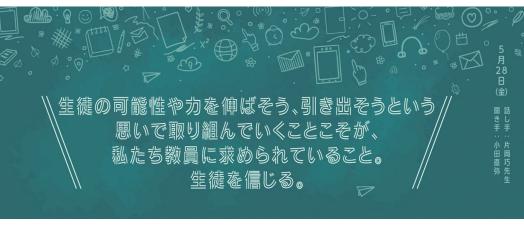
す。組んでいくことこそが、私たち教員に求められていることではないかと思いまえています。生徒の可能性や力を伸ばそう、引き出そうという思いをもって取りると思います。ただ、最後はやはり生徒を信じることが大切なのではないかと考ると思の学校が、それぞれにいろいろな課題を抱えて、苦心して取り組まれてい全国の学校が、それぞれにいろいろな課題を抱えて、苦心して取り組まれてい

校も私自身もその一端を担えるようにこれからも尽力したいと思っています。れるような教員や学校のネットワークを作れると良いと思っておりますし、本本当に様々なご苦労があると思いますが、生徒たちを信じて伸ばしてあげら

小田:片岡先生、今日はありがとうございました。

- 教員は踊れなくても、適切な課題設定 魅力に触れられるような授業はでき をすることで、生徒がダンスの特性や
- M-SS-OZ·V-S-OZ·VALUE • 学校と学校外を行き来することで、学 の共有と、良い会議の実現を

校の「硬直化」を緩める。



◆ダンスと先生と。

が始まり、延期にしていた行事がさらに延期になりましたという声も耳にして 小田:今年も残すところ数カ月となりました。新型感染症の猛威とともに9 月 メントにおいて新しいアイデアが求められていると感じています。 います。こういう時だからこそ教員同士の連携や会議の効率化など、学校マネジ 今日は、東京学芸大こども未来研究所学術フェローであり、現役公立中学校の

先生でもある岡本和隆先生にお話を伺ってまいります。

岡本先生:ご紹介をありがとうござ を迎えました。 しております。今年度で教員15年目 板橋第三中学校の保健体育の教員を います。私は現在東京都の板橋区立

がるよう努めています。具体的には 共有していくなど、ダンス教育が広 を通じてつながる取り組みを行って 動をしていたため、その経験を活か ンスクロス)という団体を主宰して DANCE X "cross" (\$ に加えて、実践をより多くの先生と に充実させていくかという実践研究 います。ダンスを授業のなかでいか して、今では全国の先生方とダンス 教員になる前はダンサーとして活

おり、関東圏を中心として、幼稚園から大学の先生まで200名近くの先生方

が参加くださっています。ここでは、子どもたちへのダンスの指導法を共有する

板橋区立板橋第三中学校 (東京)。 ダンサー

東京学芸大こども未来研究所学術フェロー

夏休みは、 「動き(変容)」が学校の「硬直化」を緩める。 学校マネジメント のヒントを求めて企業インターンへ。

> 岡 本 先 生

ます。通して、その先にいる子どもたちにもきっと伝わる、と信念をもって活動してい通して、その先にいる子どもたちにもきっと伝わる、と信念をもって活動していというよりは、まずは先生方と一緒にダンスを楽しむこと、そうした先生の姿を

という取り組みにも私は注目をしております。小田:「DANCE X´crossミ」のみならず、「ビートイットラジオ体操」

の様々な経験に加えて、ダンスの必修化という教育界の変化、またそれに順応しようと努力されていた全国の先生方の姿、そのすべてが影響し合っています。 体育の先生は、あらゆる競技を指導する必要がある一方で得意不得意はもちろんありますし、ベテランの先生になってくると、子どもたちに模範を示すこと がだんだんと難しくなってくることもあります。そうした中でダンスが必修化がだんだんと難しくなってくることもあります。そうした中でダンスが必修化がだんだんと難しくなってくることもあります。そうした中でダンスが必修化 かだんとき、メディアの煽りもあったとは思いますが、全国の先生方がダンスと教育 ロールに通い始めるという姿を見て、違和感を覚えました。

をもたれたわけですね。 小田:「ダンスの必修化=ダンスを踊れなければいけない」という発想に疑問

の先生方とオンラインでつながり、ラジオ体操をするという内容と思いますが、ら、ほとんど毎日オンライン配信されていると思います。朝早い時間から、全国小田:そうして開発されたビートイットラジオ体操は、2020 年4 月11日か

す。 全国の先生方が身体を動かしながら会話できるという、楽しくも貴重な時間で

ちなみに、どんな先生でも参加が可能なのでしょうか。

和ます。 同本先生:可能です。さらに言うと学校の先生以外も参加されてて、参加 にます。朝6 時過ぎに実施をしているので、ご都合許しましたらばぜひご参加 ます。朝6 時過ぎに実施をしているので、ご都合許しましたらばぜひご参加 とださい。FacebookやInstagramをされている方は、私の名前 ください。FacebookやInstagramをされている方は、私の名前 とださい。Facebookを はでいるので、ご都合許しましたらばぜひご参加 とださい。Facebookを はでいるので、ご都合許しましたらばがひご参加 とださい。Facebookを とださい。Facebookを の名前 になるべくペースを落とさずに、Facebookと とがさい。ます。現在は、勤務校での忙しさもあって



◆インターンで見た、マネージャーという仕事。

ベートとして企業へのインターンに参加されたと伺いました。小田:さて、岡本先生はこの夏休み、制度を活用…ということではなく、プライ

だからこそ、初めての方と出会い、知らない世界を知り、自分が「変容」していく校や学校を支える先生方が「硬直化」しているように感じています。そうした今員像が求められ、さまざまな学校への期待と課題が同時に降り注ぎ、結果的に学うヴィジョンをもっていました。ただ、近年では特に社会の変化に対応できる教岡本先生:先生になった当初から、「多様な人材が協働できる学校の構築」とい

ンターンへの参加もその一環です。ていくことが学校の「硬直化」を緩めるヒントになると感じています。今回のイという、大人が学び、変わっていく姿を子どもと共有することを絶えず繰り返し

だいたことで、インターンへの準備が進んでいったとのこと。の方と行われた勉強会で「先生がインターンに行く」という記事をご紹介いた小田:岡本先生が「認定特定非営利活動法人Teach For Japan」

実践の中でマネジメントを学びたいと考え、インターンへの参加を行いました。第に授業だけでなく、組織のマネジメント能力も求められ始めていたことから、岡本先生:私自身の「変容」を求めて、また教員としての年数が経つにつれ、次

か。こと。具体的な日程や内容を、お話しできる範囲で教えていただけますでしょうこと。具体的な日程や内容を、お話しできる範囲で教えていただけますでしょう小田:インターンは「株式会社ARROWS」様が受け入れてくださったとの

の様子を見せていただきました。 MISSION・VISION・VALUEの共有の仕方について、実際にそ初日はARROWSさんの会議の考え方を教えていただいたり、社員とのMISSION・VISION・VALUEの共有の仕方について、実際にその様子を見せていただきました。

小田:MISSION・VISION・VALUE は、経営学者であるピーかれており、この考え方に即して大手企業のほとんどが経営方針を整理していどんな企業になりたいのか、VALUE は組織で共有すべき価値観や指針と言われており、この考え方に即して大手企業のほとんどが経営方針を整理していわれており、この考え方に即して大手企業のほとんどが経営方針を整理していわれており、この考え方に即して大手企業のほとんどが経営方針を整理していわれており、この考え方に即して大手企業のほとんどが経営方針を整理していわれており、この考え方に即して大手企業のほとんどが経営方針を整理していわれており、この考え方に即して大手企業のほとんどが経営方針を整理していわれており、この考え方に即して大手企業のほとんどが経営方針を整理していまった。

岡本先生:ARROWS さんの一週間は、MISSION・VISION・

の会議はあまりされていないとのことでした。 VALUE をふまえた会議が主ですが、ARROWS さんはそういった大人数では、先生方数十名での会議が主ですが、ARROWS さんはそういった大人数では、先生方数十名でのミーティングを行い、その後にマネージャーが社員一人とのとして、

ローチしていることもよく耳にします。のは経営の上でとても大切な考え方と思いますし、様々な企業さんがそこにアプ小田:達成したい目的に対して、適切な会議の在り方が設定できているか、という

さを感じる、ショッキングなインターン初日となりました。 はなりました。マネージャーという仕事を目の当たりにして、教員としては非力ら、社員が今必要な業務に注力できる環境づくりに配慮が見られた点も、とても勉ら、社員が今必要な業務に注力できる環境づくりに配慮が見られた点も、とても勉いがいかのもの大切さをARROWS さんの会議から学ばせていただきました。 岡本先生:良い会議の考え方として、良い資料とその内容を共有する時間、この2

思えたことは発見でした。と日目以降は、営業の現場に入らせていただきました。そこでは、共同で新教材2日目以降は、営業の現場に入らせていただきました。「この進め方だと子どを開発されるというミーティングだったこともあり、初日に感じた非力さとは一を開発されるというミーティングだったこともあり、初日に感じた非力さとは一

◆硬直化を解くカギとしての「動き(変容)」。

うか。
うか。
うか。

のなかで、毎日たくさんの課題解決を行っています。一方で、企業では、たくさんの岡本先生:私たち教員は、社会から提示される新しい教育課題や、日々の学校運営

ことでした。はそうした発想が少なかったな、と思ったのが、学校現場に戻って最初に感じたはそうした発想が少なかったな、と思ったのが、学校現場に戻って最初に感じたもの問題が同時に解決できるような価値のある仕事もあると思います。学校で課題解決が価値ある仕事を発生させるという考え方の他に、1つの解でいくつ

す可能性もあると感じました。人お一人のヴィジョンのずれが問題につながったり、仕事の進行に影響を及ぼ方の経験則に頼って進めていることが多いような印象で、その場合、先生方お一という発想が少なかったとも思いました。学校だと、どうしてもそれぞれの先生という発想が少なかったとも思いました。学校だと、どうしてもそれぞれの先生また、1つの行動を学校の方針(ヴィジョン)から考えたときにどうなのか、

と申しますか、チューニングが必要になるようにも思います。とに個性があると思いますが、そう思うと異動のたびにヴィジョンを持ち直す小田:学校の先生方は、「異動」が前提の職業であるとも思います。地域や学校ご

とは大切な発想なのではないかと思いました。とは大切な発想なのではないかと思いました。名と同いました。学校も、「学校」という名前は変わらずとも、中身は常に質的なると同いました。学校も、「学校」という名前は変わらずとも、中身は常に質的なると同いました。学校も、「学校」という名前は変わらずとも、中身は常に質的なると同いました。学校も、「学校」という名前は変わらずとも、中身は常に質的なるとのでなく、むしろ変化するものであるという前提の上で、しかるべきタイとは大切な発想なのではないかと思いました。

生のように学べる機会はどのように見つけることができるのでしょうか。どうしても東京が便利に思ってしまうのですが、全国の先生方が今回の岡本先セットも欠かせないものと思います。こうした考え方を学びたいと思ったとき、小田:急速な変化を見せる教育業界においては、変化を前提としたマインド

をお借りできるとよいと思いました。かりした理念をもった企業さんがあると思いますので、地元企業さんのお知恵岡本先生:マネジメントや経営を学ぶということであれば、どの地域にも、しっ

になると思います。 直に受け入れる「変容」を通して、教員という職業そのものも相対化できる機会対化する機会になると思いますし、学校の先生の強みや知らなかったことを素すが、学校の先生の顔をしながら全く違う世界の回り方を見ることで、学校を相学校の校内研修や、教育委員会が実施する研修ももちろん価値のあるもので

ていると感じています。て外に出ていってまた戻ってくることが、学校の「硬直化」を緩める一助になっり、経験したことを還元してほしいと仰ってくださいました。私が先生の顔をしに興味をもってくれましたし、会議の在り方など、校長先生も耳を傾けてくださら回、インターンに参加して学校に戻ったとき、他の先生もインターンの内容

た。直化」を緩める、というのは、ダンサーである岡本先生らしい核心に聞こえまし直化」を緩める、というのは、ダンサーである岡本先生らしい核心に聞こえまし小田:「動き(変容)」を通して「硬

◆全国の先生方へのメッセージ

小田:最後に、全国の先生方へ一言メッセージをお願いします

ば、光がみえてくると考えております。 ながり、知恵やノウハウを共有し、個々の強みを最大限に発揮できるようになれ期待も大きくなってきていると感じています。この難局に対して、先生同士でつけだけでなく、Society5.0 など、社会の変化が激しくなり、教育への岡本先生:私たち教員は、いま大変な時代を迎えていると思います。それはコロ

小田:岡本先生、今日はありがとうございました。

防災の調べ学習。 明日が来ることの尊さを学んだ。

インタビュー。 現役小学4年生ーさん(香川県)への

- 学校は楽しい。
- ・タブレットを使った学習では、タイピ
- •防災の調べ学習を通して、自分は大丈



◆昔のような小学校生活に戻りたい。

事、おうちでの好きな過ごし方などがあれば、教えてもらえますか。早速、自己紹介をお願いしたいのですが、いま入っているクラブ活動や、習い小田:新年初回は、香川県の小学4年生、I さんにお話しを伺ってまいります。

ています。家ではお絵描きをよくしています。Googleで香川県について調べたりしています。習い事はスイミングをしL さん:クラブはパソコンクラブに入っています。タイピングの練習をしたり、

小田:パソコンクラブに入りたい!と思った理由はありますか。

ターネットを使って調べたりするのが楽しいと思ったからです。 I さん:キーボードを打つ時のカチャカチャという音が好きだったのと、イン

どんな気持ちになったか覚えていますか。小田:少し前のことになるけれども、去年、コロナで学校がお休みになったとき、

学校にいきたいと思いました。ラッキーって思ったと思うけど、コロナで学校がお休みになったときは、はやくたので、宿題を終わらせたら、家で過ごしていました。夏休みや冬休みだったらL さん:「長いお休みだな~」と思いました。お友達と遊ぶこともできなかっL さん:「長いお休みだな~」と思いました。お友達と遊ぶこともできなかっ

小田:1年たった今、どんな思いがありますか。

コロナの前は、お友達と手をつないだりしたけど、今は手をつないだら怒られI さん:コロナでいろいろと変わったけれど、学校は楽しいです。

香川県在住の小学 4 年生

I さん

とは思うけど、1つのおうちに遊びに行くときは4人までとか、お約束が決まっ ています るし、たくさんのお友達と一緒に遊ぶこともできなくなりました。しょうがない

小田:「しょうがない」って思えるIさんはすごいと思う

れ、コロナになってから入学してきた下級生の子たちはとてもかわいそうだと とがあったけど、コロナになってからはクラスでだまって食べるようになりま した。集団登校も、夏祭りの盆踊りも、ラジオ体操も中止になり、運動会も縮小さ Ι さん:給食の時間は、コロナの前は1 年生から6年生までが一緒に食べるこ

一日でも早くコロナが落ち着いて、昔のような小学校生活に戻りたいです。

◆タブレットを使った学び。タイピングとパスワードが課題

その1つが、タブレットを勉強で使うようになったことだと思うけれども、I 小田:コロナになってから、きっと、学校での勉強の仕方が変わったと思います。 さんの学校ではタブレットをどんな風に使っていますか

出て、虫や植物の写真を撮ったりしています。 ど、地域のことを調べるときに使っています。理科の時は運動場や中庭に持って Ⅰ さん:国語の時は辞書の代わりに使っています。社会の時は地域の特産品な

小田:タブレットを使った勉強をする中で、大変に思うことはありますか

Ι さん:タイピングの難しさがあると思います

たりしました。 あとは、パスワードが他のお友達に知られないよう、難しいパスワードになっ

小田:タブレットは授業以外では使わないですか

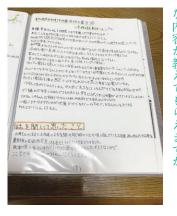
けタブレットを使っていいときがあります。そのときは、ミライシードっていう アプリや、ヤフーキッズでゲームをしたりしています。 Ι さん:雨の日は外で遊べないので、昼休みなどの長い休み時間にちょっとだ

小田:これから先、タブレットを使って勉強していくうえで、楽しみなことはあ りますか

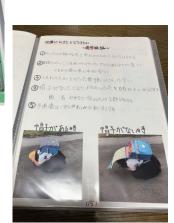
ンドセルが軽くなるので、はやくそうなればいいなと思います。 Ι さん:今後は、タブレットの中に教科書が入るようになると聞きました。ラ

◆当たり前のようにやってくるはずだった明日

な内容か教えてもらえますか 小田:I さんは今年、防災をテーマに調べ学習をしたと伺いました。どのよう







I さん:日本でおきた過去30年の地震のなかで、特に被害の大きかった阪神淡

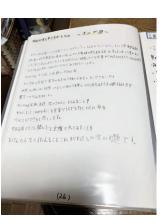
「日間は見にいす!」

で起こるといわれている南海トラフ巨大地震への対策を考えました。ンタビューしてまとめました。それをもとに、今後30年以内に70%以上の確率路大震災と東日本大震災について、それぞれの地震の規模や被害、当時の話をイ

小田:どうして防災をテーマにしたいと思ったか、覚えていますか

ろうと思い、調べてみました。 日 さん:毎年1月になると京都では防災の勉強をするとお父さんからは「あと30年以内に香川もこんな地震が来るで」と言われ驚呆然とする人々の映像から「こんなんなったら大変やなぁ」と思っていたのでした。私もテレビで阪神淡路大震災に関する特集番組を見て、倒壊した家の前で日 さん:毎年1月になると京都では防災の勉強をするとお父さんから聞きま

小田:I さんのまとめられたもののうち、特にこのページには心打たれました。



ることだと思いました。 日 さん:この調べ学習をしているときに読んだ本の中で「当たり前のように日 さん:この調べ学習をしているときに読んだ本の中で「当たり前のように日 さん:この調べ学習をしているときに読んだ本の中で「当たり前のように日 さん:この調べ学習をしているときに読んだ本の中で「当たり前のように

小田:I さんはこれから先、どんな職業についてみたい、という夢はあります

か。

です。 I さん:なりたい夢はたくさんあるのですが、弁護士や病院の先生になりたい

◆先生、ありがとう。

らいました。 を表があり、当時の担任の先生が異動になりました。離任式もなく、お別れを言発表があり、当時の担任の先生が異動になりました。離任式もなく、お別れを言いました。3 月に先生の異動の

たこと、立派な3年生になってくださいねと書いてありました。後日、先生から家にお手紙が届きました。そこには、私たちともっといたかっ

先生、ありがとうございました。

大生、ありがとうございました。
の絵などを見てくれたことを知りました。学校は変わっても、私のことを覚えての絵などを見てくれたことを知りました。学校は変わっても、私のことを覚えての絵などを見てくれたことを知りました。学校は変わっても、私の文化祭でを過ごしていました。そしてお正月に届いた先生からの年賀状で、私の文化祭で私は何をしたらいいのかわからないので、目の前のことだけ取り組んで、日々

小田:Iさん、本日はありがとうございました。

16

Archive

2021.JAN ► 2022.MAR



05 / 28

学校の役割を見つめ直す。地域の課題を受け止め、生徒が創る学校へ

03 02 02 02 02 01 01 01 01 01 05 26 19 12 05 29 22 15 08
02 02
02
02 /
03 /
03 / 12
03 / 19
03 / 26
04 / 30

	09	08	07	06
	09 / 24	[/] 27	23	11
(10ページ掲載)	夏休みは、学校マネジメントのヒントを求めて企業インターンへ。「動き(変容)」が学校の「硬直化」を緩める。	08/27 子どもの世界に飛び込むことでひらめくICTの実践。課題を理解したうえでの活用を。	07/23 教育実習生を指導する。その心構えは?	06/11 アンガーマネジメントから絵本へ。目まぐるしい今だからこそ考えたいこと。

2 0 2 2 / 01 / 28	12 / 24	11 / 26	10 / 29
(14ページ掲載) 防災の調べ学習。明日が来ることの尊さを学んだ。	国際協力経験者が創る学童。体験を子どもたちの自信に。	外部団体との連携は遠慮せずにアプローチしてみる。NPO法人みんなのことばの取組紹介。	業務効率化はシングルタスクから。Googleカレンダーをタスクマネジメントツールに。

インタビュー企画のこれからと総集編記事。

動画クリエイターと学校。Uターンで島と教育の未来を考える。

Archive





SERVICE COLORS | Colors |

子どもたちに届ける教育の共存「YouTubeと学校」

を2021年8月22日(日)に実施しました。 FOR TEACHERS初めての参加型イベント育支援フェロー)に司会いただき、POWER の口直先生(東京学芸大こども未来研究所教教育Y0uTuber葉一さんをゲストにお迎え

- YouTubeは選択肢の1つ。サポートツールとして使!
- **シプルでOK。** 動画制作はストライクゾーンをはっきりとさせ、短くシ

◆第2回オンライントークイベント

◆第1回オンライントークイベント



ーサントリーが届ける次世代環境教育「水育」ー地域の企業と学校とのつながりを考える

2021年10月24日(日)、サントリーホールディン2021年10月24日(日)、サントリーホールディンがス株式会社様より、小林章浩様、市田智之様のがス株式会社様より、小林章浩様、市田智之様のが大世代環境教育「水育」ー〉。サントリーが行う次世代環境教育「水育」ー〉。サントリーが記ける大世代環境教育「水育」ー〉。サントリーが正ける大世代環境教育「水育」の取り組みをご紹介いただき代環境教育「水育」の取り組みをご紹介いただきました。

- 事業で得た利益は「水」をテーマに世の中に還元する。
- 晴らしさや、水の大切さに気づいてもらう。「森と水の学校」や「出張授業」で、子どもたちに自然の素
- ンしてほしい。 規模に限らず、地域視点で地元の企業とコラボレーショ

ました。

ました。

ました。

お型コロナウィルス感染症が学校現場にもたらした影響は絶大で、新型コロナウィルス感染症が学校現場にもたらした影響は絶大で、異年齢交流の機会であった縦割給食もできずに黙食、突然の学級/学年閉鎖。「いつもの学校」が懐かしく思学が行事は延期を繰り返し、異年齢交流の機会であった縦割給食もでそのドラマは、今を生きる私たち全員が共有する記憶になりました。

変わり、明日の学校教育の豊かさへ連続することを願っています。 を学校の記録です。ただ、ここに記される記録は苦しいものばかりで はありません。これからの私らしい働き方、これからの教育実践への 展望といった「未来」への視点が同時に存在します。アイデアと行動 でより良い未来を創ろうとするエネルギー、これこそこのサイトが全 国の教職員の方へ届けたいと願う。POWER、の正体です。 今日に至るまで、お力を貸してくださったすべての方々へ、心から 感謝申し上げます。そして、このサイトに詰まっているいくつもの 「未来」へのエネルギーが、サイトを活用くださる方のPOWERに でおり、明日の学校教育の豊かさへ連続することを願っています。

NPO法人 東京学芸大こども未来研究所 学術フェロー

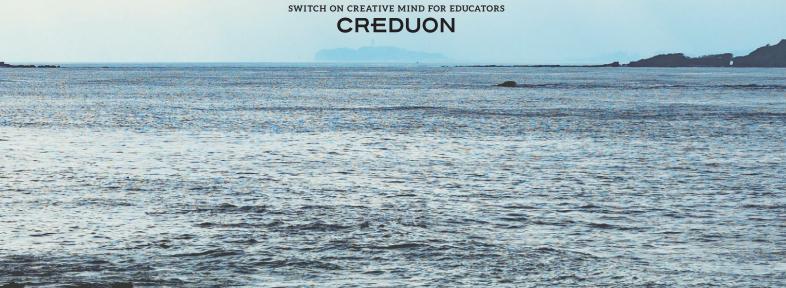
小田

CREDUON ANNUAL REPORT Vol.5

SIZEDO

SWITCH ON CREATIVE MIND FOR EDUCATORS

CREDUON



発 行 所 特定非営利活動法人 東京学芸大こども未来研究所 住所:〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1 電話:042-312-4112 編 集 増田 謙太郎・小田 直弥 デザイン 門馬 純+Panda Blue

> Copyright©2022 by Tokyo Gakugei Univ. Children Institute for the Future All rights reserved.

※本誌に記載されております所属および肩書き等については、 ウェブサイト掲載時のものです。
※本誌の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などを することは、かたくお断りいたします。

https://creduon.jp/







2021年1月

- ・心理師からのアドバイス1
- ①なんとなく学校へ行きたくない子への支援
- ②子どもたちの心に寄り添うということ

2月

- ・全校朝会の話
- ①~人と人をつなぐ 「心ぽかぽか挨拶運動」~
- ②~子どもに響く 教職員に響く校長講話~

3月

- ・心理師からのアドバイス2
- ①思春期のトラブルについて~なぜ子どもは抱え込むのか~
- ②若手教師のレジリエンス レジリエンスの獲得と教師としての成長

4月

・思春期の子どもが抱えがちな問題と教師としての対応 ~「なりたい自分」と「ありのままの自分」~

6月

・子どもが充実感をもてる指導方法と教室環境

7月

- ・「できこぼれ」の子どもへの支援方法
- ・国語が苦手な子どもへの支援方法 (10ページ掲載) ~分かった!できた!を実感させるきっかけづくり~
- ・子どもに寄り添った授業デザインを

10月

- ・ジグソー法を活用した学習活動 (11ページ掲載)
- ・初任者の先生へのメッセージ ~困難なときほど、柔軟な学びの時間を~

12月

- ・「主体的・対話的で深い学び」を目指した読書教育 ~リテラチャーサークルの取り組みから~(12ページ掲載)
- ・つなげて、つなげて話し合おう!~即興的に反論し合う「うん。でも、バトル」~

2022年1月

- ・子どもの理解に寄り添う 集団アクティブ・ラーニングの手法を考える
- ・アクティブ・ラーニングを通して 多面的・多角的思考を育む

2月

・授業に参加しやすい雰囲気づくり アクティブラーニングを取り入れるその前に

(13ページ掲載)

この授業のテーマは何ですか?KP法で授業のテーマを明確に!



2021年1月

・価値観が変わった3年間

2月

・今日の授業は子ども達のためにできましたか。

3月

・企業の総合職と公立高校の教員を経験して感じること

5月

・目的にたどり着く方法を選んでいく:オンラインでのことばの支援

8月

・教師を続けている理由

~これまでにない教員像が必要な時代~

(14ページ掲載)

・私が子どもと関わる時に大切にしていること ~経験した三つの役割を通じて~

10月

・2021年の夏、「ともに」活動した わたしたち東京オリンピックボランティア

(15ページ掲載)

A rchive

2021.JAN ► 2022.MAR



2021年1月

- ・スポーツ団体と教育現場における指導の違い1
- ・スポーツ団体と教育現場における指導の違い2
- ・スポーツ団体と教育現場における指導の違い3

2月

- ・SDGsのための教育と未来への学び
- ①SDGsとその教育が目指すもの
- ②新しい学びを促すSDGsのための教育
- ③子どもと大人がともに学ぶSDGs

3月

- ・進んで関わり合いながら運動に取り組む子の育成 〜大田区立新宿小学校の校内研究実践報告〜
- ①研究の概要
- ②授業実践
- ③研究の成果と課題

4月

- ・授業動画作成をする上で心がけたこと
- ・インクルーシブ教育の実現のために
- 一交流及び共同学習場面からの取組― (4ページ掲載)

5月

- ・国際バカロレア教育と多様性 (5ページ掲載)
- ・子どもが見通しをもちやすい授業スタイル
- ―UDの視点×主体的・対話的で深い学びの実現を目指して―

(6ページ掲載)

6月

・より多くの子どもにとって「わかりやすい」グループ 活動の工夫

8月

・キャリア教育推進への第一歩

9月

- ・あなたの判断は?Yes or No?
- ~防災教育で培う問いを生み出す力~
- ・ロールプレイングでなりきる!
- ~相手の気持ちに立って行動できる力を養う~
- ・日本語と教科を結ぶ

(7ページ掲載)

11月

- ・授業改善のために、自分の「強み」を知る ~コア・リフレクションとジョハリの窓~
- ・根本的で多面的な思考を促す哲学対話 ~フレーズにこだわることの可能性~ (8ページ掲載)
- ・数学におけるアクティブ・ラーニングを見直す

12月

・公立中学校の多様性を活かす、 『学び合い』の考え方を取り入れた授業 (9ページ掲載)

2022年1月

・通級による指導におけるアクティブ・ラーニング ~自立活動とアクティブ・ラーニングの関連性~

2月

実験をやっただけではALにはならない。〜金属イオンの定性分析をつかって〜

3月

- ・共に育つ学級づくり
- ・「最幸な学級」を目指して
- ・子どもが自分の思いを形にする表現の指導 ~子どもの声に耳を傾けることから~

2013年9月、IOC総会で「TOKYO 2020」が決定した瞬間から、ボランティアとして活動したい、と心に決めていました。この世界の中で、今ここで生きていることを「ともに」感じたいと思ったからです。そして、2019年春から研修が始まり、新型コロナのために1年延期となりましたが、私はフィールドキャストとして、トライアスロン練習会場の担当になることができました。

場所は台東区のスポーツ施設(50m プールと陸上競技場)。我々ボランティア(ボラ)は、選手村からバスで会場入りする選手を迎え、練習コースまでの誘導、タイマーや飲み物などの用意をします。選手たちからの要望を受けられるようにプールサイドで待機することも役割の一つです。早朝と夕刻の1日2回、3便ずつの予約制でした。

初日は会場準備。組織委員会のチーフ3名とボラ7名。顔合わせをしただけで、すぐに活動に入りました。チーフからの「この倉庫の物品をプールサイドに運びましょう」という言葉で、みなさん手際よくかつ和やかな雰囲気で動き始めました。それは選手を迎えた場面の役割分担も同じく滑らかに進んでいきました。私は少し驚きつつ、仲間と共に活動している心地よさを感じました。選手との交流はコロナ禍のためにかないませんでしたが、あいさつやジェスチャーでボラからの歓迎の気持ちを伝えることはできたと思います。

あっという間に大会期間を終え、やっと一同が顔を合わせることができました。メンバー構成はトライアスロン経験者と近隣の方々でした。それぞれに「TOKYO2020」に寄せてきた想い、トライアスロンにかける情熱などを聞き合いました。私は、「選手のみなさんに気持ちよく練習してもらいたい」という同じ願いをもった人たちが集い、それぞれに責任をもって役割を分担していると、お互いの経験や人柄がにじみ出てきて、ものごとがうまく動いていくということを体感できた、と話しました。この時間の共有によって、チームとしての一体感をじんわりと深めることができました。

私が受け持っている子どもたちは、まさにグローバルな時代を生きていくことになります。世界中の初めて出会う人たちと交流したり仕事をしたりすることもあると思います。そのような場面でも、自分ができることは何かを考え、動いてみること、それが相手とともにうまく機能していくと、自然と自分らしさが出てきて、その先にわくわくするような新しい発見があるよ、ということを日々伝えていきたいです。



桐朋学園小学校

代

(

私は、今年で教員9年目を迎えました。学生の時も、教員になってからも私の学校に対して、学校が「苦手だ」という見方は変わっていません。

学校は、強者(いわゆる「陽キャ」)の主張によって成り立っていることが多いでしょう。例えば、「いじめた側の生徒の謝罪を、された側の生徒が受け入れる」、「その集団の当たり前に当然のようになじむ」、「仕掛けを行うことで生徒の動機づけが強化され学習に前向きになる」、「指導したり、計画通り実行したりすることで生徒に望ましい変化が訪れる」などが挙げられます。これらのことにうまく適応した人物が模範的であり、学校が好きになった人物が教師になっていくことが多いでしょう。これらと逆の人物は、未成熟で協調性がないように扱われることがあります。謝罪を受け入れたくない生徒(これまでも嫌な思いをし続けていたようにみえる生徒)に対して「謝ったのだから受け入れなさい。大人になれ。」と指導する教師、その学校や授業のあたりまえを振りかざし他人を批判する教師などもその一例です。果たしてその捉え方でいいのかと思うわけです。

この背景にあるのは、うまく学校に適応してきた教師が、それまでの学校生活で獲得した通念や、一般社会において言われていることのうち自分のもっている通念に合致するものを指導に援用しがちだからだと考えます。同時に、強者の理論が教師の思考停止を招いているといってもいいでしょう。

しかしながら、このような学校現場における思考停止からの脱却のために、違和感を覚え現状に対して疑問を投げかける人物は重要な役割を担うと思っています。例えば、コンピテンシーベースへの移行に対して、それは妥当な変化か、教育の目的から考えてどのように位置づくか、それ以外の可能性はないかということを考えていくことは重要でしょう。探究が推進される過程で、探究至上主義と反探究的な主張に2極化し、ゆとり教育のように批判の的にならないとも言い切れません。つまり、問題は教育内容や方法によらず、強者の理論による一方的な同調や順応を進めることで解決を目指す一方で、効果的ではなかったという反発が生まれる構図であり、教師の思考回路そのものにメスを入れていくことが解決に必要だといえます。

組織マネジメントの視点から考えると、日本の学校組織には「同調性」が働いていることが多く、現状に疑問を投げかけることはおろか、一定の資質に限定された教員集団が多様な生徒に「共感」し発達をサポートすることについても限界があるでしょう(同様に、私も共感できる幅には限界があります)。多様な感性をもった教師による、本当の意味での協働が必要なのです。だからこそ、学校というものに違和感をもっている私が教員であり続けることには一定の意味があると思っています。

ア

テ

1

ブ

ラー

ニン

グ

を

取

ŋ

入れ

るその

前

12

佃康子

みなさんは、「小学校の家庭科で何やった?」と聞かれて、すぐに答えられますか? この質問に答えられるか否かは、小学校を卒業してからの年数が大きく関係してくると思います。

このテーマを高校入学直後の家庭科の授業で取り上げると、とても盛り上がります。その理由として、まず、全員が何かしら体験しているから、ということが挙げられます。また、家庭科の授業自体は全員経験していますが、印象に残っている題材は違うことが多いので、「自分は〇〇を料理した」「私はミシンで〇〇を作った」とたくさんの意見が出ます。どのクラスも、入学直後とは思えないほどの盛り上がりをみせます。

私がなぜ初回の授業にこのテーマを取り上げるかというと、もちろん生徒の既習事項をリサーチしたいという思惑もあるのですが、それ以上に、誰もが発言しやすい雰囲気をつくるためです。

生徒が、生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を育むために、授業に、アクティブラーニングを取り入れることはかかせません。アクティブラーニングの技法には様々なものがありますが、どの技法を用いるにしても、その技法を取り入れたからといって、すべての生徒が主体的に学習に取り組むようになるわけではないことは、みなさんお気づきのことと思います。

そこで大切になるのが、クラスの雰囲気作りです。できるだけ早い段階ですべての生徒に発言の機会を設けることで、発言することへのハードルが低くなり、その後も授業に参加しやすくなるのではないでしょうか。このような考えの下、初回の授業で私は、前述のテーマで「バズセッション」という討議法を用いて授業を進めます。これはドナルド・フィリップスにより考案された話し合いの手法で、ブレインストーミングの一種です。少人数(フィリップスは6名を推奨)のグループにわかれ、バズ(=buzz)、蜂がブンブンと賑やかに飛び回るように、思ったまま自由に話し合います。その際、他の人の意見を否定してはいけません。その後グループの代表者が発表します。発表者は意見をひとつにまとめる必要はありません。

この方法を用いることで、全員の小学校家庭科の体験が、クラスで共有されます。第2ラウンドとして「中学校の家庭科で何やった?」と投げかけ、中学校家庭科の体験も共有します。(盛り上がると話題は家庭科に留まらず、お互いの小中学校の思い出話に花が咲きます)それらをすべて板書したうえで、それを眺めながら、「これから高校の家庭科では何を学ぶのでしょう?」と問いかけると、自然と、前後左右の級友と相談し始めます。自発的なアクティブラーニングの始まりです。

このように、少人数のグループでディスカッションする「バズセッション」は、生徒の発言をまんべんなく拾うことができます。また、新しいクラスでお互いを知り合うことができるというメリットもあります。ぜひお試しください。

佐 藤 由 佳

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が重視されています。これを具現化する読書指導の 方法の1つにリテラチャーサークルがあります。

リテラチャーサークルとは、1990年代にアメリカで広まった子供たちの読解力を育成する方法の1つです。 3~5人のグループで同じ本を読み、役割を決めて話し合うという手法です。4回で読み切るという計画なら、 本を4つの部分に分け、読む日にちを割り当てます。

役割には以下のようなものがあります。

- ①思い出し屋 あらすじをまとめる役
- ②イラスト屋 お話のワンシーンをイラストに描く役
- ③照明屋 心に残った一文にスポットライトを当てる役
- ④質問屋 みんなでディスカッションするための問いを考える役
- ⑤つなげ屋 自分の性格や経験とつなげて読む役
- ⑥予想屋 先を予想する役

この活動を「主体的・対話的で深い学び」という観点から見てみましょう。まず主体的な学びについてで す。私は、リテラチャーサークルを行う際、読む本をリストの中から自分で選ぶようにしています。リスト には、本の難易度と簡単な内容が分かるように示しておくため、自分に合った本を選ぶことができます。読 書力や興味関心に合わせて本を選ぶことができるので、主体的に取り組みやすくなります。

次に、対話的な学びです。リテラチャーサークルでは、グループで読む際の役割が決まっているので話し 合いがしやすいという特徴があります。役割が選べるので、自分が話しやすい内容で対話することができま す。初めは対話が続かないこともありますが、繰り返し行っていくことで、相手の話につなげて話すことが 上手になります。同じ本を読んでいることや本の解釈には正解がないことなども対話を促す要素として働き

最後に深い学びです。一般的な読みの授業では、全体で読み進めていくため、一見読みが深められたよう な気になります。でも、一部の児童の発言で授業が進んでいる場合があり、実際には読みの力がなかなか身 に付いていない児童もいます。リテラチャーサークルでは、少人数グループで役割に基づいて読んでいくた め、自分なりに読み進めていく力が付きます。また、それぞれの役割で必要になる力は、読書をする上で大 切な読み方の方略になっており、他の本を読む際のヒントになります。たとえば、質問屋では、問いを見つ ける力が養われます。読書する中で自分なりの問いを見つけ、考えながら読むことは、大人の読書でも非常 に大切なことだと言えます。

読書は生涯学習の観点からも重要だと言われています。授業の中でも積極的に取り入れ、「主体的・対話 的で深い学び」の観点から、読書教育を見つめていくことが求められているのではないでしょうか。

植木みお

「ジグソー法」は、1971年に社会心理学者であるエリオット・アロンソンによって米国で考案された協同学習の技法で、元々は人種間の対立の緩和を目指したものでした。以降世界中に知られるようになり、現在日本の学習指導要領でも「主体的・対話的で深い学び」につながる効果的な学習方法として注目されています。「ジグソー法」はグループ学習で、「ジグソーグループ(ホームグループ)」と「エクスパートグループ」という2種類のグループを作ります。目的はジグソーグループでの資料の読解・理解ですが、皆が同じ資料を読むのではなく、各々のメンバーが異なる部分を読み、それをグループで総合することで各自の学習を進めていきます。

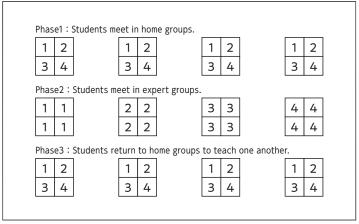


図1 ジグソー法におけるジグソーグループ (ホームグループ) とエクスパートグループ。 第一段階:ホームグループで集まる/第二段階:エクスパートグループで集まり、 理解を深める/第三段階:ホームグループに戻り互いに教え合う

この手法をアレンジして、英語の授業に活用した例を紹介します。

【活動のゴール】

「英語で読んだ文章の内容を英語で話すことができる」

【進備

英文を4つのパートに分け、紙を4分割する。その紙を教室の四隅に貼る。

【活動の手順】

- ①4人グループを作り、それぞれが1つずつ貼られた情報を読みに行く。何度読みに行っても良いが、メモ等は必ず戻ってきてから書く。
- ②読んだ内容を英語でグループのメンバーに伝える。
- ③4つのパートを統合し、1つのストーリーとして説明できるように発話練習する。
- ④ペアになり英語でストーリーを説明する。ペアを変えて複数回練習する。

他にも絵やワークシートを活用したり、読んだものを英語で書かせたり、意見や感想を書かせたりするなど、生徒のレベルに合わせて活動を調整することができます。

ジグソー法を活用した学習は、グループの生徒間での協同的行動があって初めて実現可能となるため、必然的に「相互依存」が起こります。学業成績を高めるだけでなく、学校をより相互支援的、思いやりのある場所に変えるという効果も期待できます。教科を問わず活用できる手法なので、ぜひ授業の中に取り入れてみてはどうでしょうか。

〈参考文献〉

山本崇雄(2015)「アクティブ・ラーニングで4技能を育てる」『TEACHING ENGLISH NOW 特別増刊号』Vol.2,pp.8-9. 友野清文(2016)『ジグソー法を考える 協同・共感・責任への学び』丸善プラネット

宇賀義幸

「私の気持ちをわかってくれる同級生はいない」。

この発言をした子どもは、勉強が良くでき、スポーツも得意で、周りにも気を配ることができる人物です。 授業でもよく周りの子どもをサポートし、友人から慕われ、教員からの信頼も厚い子どもです。なぜ、この ような発言にいたったのでしょうか?

○ 「できこぼれ」

優秀な子どもが学校内で限られた人数 しかいない場合、友人は作ることができても、意識の高い子ども同士で「高め合う関係」を作ることが難しい場合があります。また、学校の授業は優秀な子どもにだけ焦点を合わすことはできませんから、学習による刺激が少なく、優秀な子どもは孤立し、次第に「できこぼれ」の状態に陥っていくことになります。

○「できこぼれ」の子どもの心情

冒頭の発言をした子どもは、学校の授業で行っているような"標準レベル"のことは簡単にできるが、"より高いレベル"のことはできていないと自覚していました。

西林(1994)¹は、「知識や仮説を多量に持っている人は、それの意味づけという点でも、わかってないこと、 知らないことも、また多量に抱え込んでいる」と述べています。

しかし、周りの子どもからは「何でもできて良いよね~」、「悩みなんてないでしょう」などと言われ、自 分のも つ悩みを分かち合うことが、同年代の子どもとの関わりにおいては難しかったのです。

○「できこぼれ」の子どもへの支援

教員は、優秀な子どもが上述したような独特の悩みをもっていることを自覚し、その悩みに寄り添い、関わっていくことが最も重要なことではないでしょうか。たとえば、授業内容を早くに習得することを想定し、別の課題や問いを事前に用意し、提示することが考えられます。また、オンライン化が進んでいることを利用し、授業内容に関連するインターネットサイトの資料に目を通させたり、自学ができるオンライン教材を利用させたりして、子ども自らが学習内容を深められるように提案することも考えられます。

「優秀な子ども」を「手のかからない子ども」と決めつけず、周りの子どもと違った悩みをもっているという意識をもつことを忘れないようにしたいと思います。



〈参考文献〉

1西林克彦(1994)『間違いだらけの学習論 なぜ勉強が身につかないか』新曜社

永尾啓悟

○多様な生徒が通う公立中学校

学力、学習意欲、趣味嗜好、家庭の経済力……。公立中学校は、実に多様な生徒が通っているところです。 そして、その多様な生徒を年齢という1つのものさしで区切り、40人ごとに学級をつくり、1日5~6時間 の授業を受けさせている場所です。そこでは、学力が中程度の生徒に合わせた授業が行われ、全員一律の課 題に取り組み宿題が課される、というのがまだまだ現状としてあるように思います。

本来、多様性は希求すべきものであり、組織にとってはプラスとなるもののはずです。しかし、上に書いたような現在の公立中学校の授業を見るとどうでしょうか。授業において多様性は、先生方を困らせる種となり、「落ちこぼれ」や「吹きこぼれ」を生む原因となってしまっているように思います。

○『学び合い』

『学び合い』は上越教育大学教職大学院の西川純先生によって考案された、学習形態及び考え方です。一般的に使われる学び合いと区別するために、西川先生が考案された学び合いには『』を付けて『学び合い』と表現されます。『学び合い』は、3つの「観」(学校観、子ども観、授業観)を基本にしています。授業観では、授業における教師の仕事は目標の設定、評価、環境の整備で、教授は子どもに任せるべきとされています。現在、授業で多くの教師が大部分の時間をかけて行っている教授を、子どもたちに委ねるという点で、一般的な授業とは大きく異なります。この授業の良い点は、自分が理解できるまでじっくりと取り組むことができ、早く理解した子はまだ理解できていない仲間に教えることで、自分自身の理解もさらに深まり、学級の人間関係も良くなるという点にあります。

○『学び合い』の考え方を取り入れた授業

公立中学校の生徒の多様性を存分に活かすため、『学び合い』の考え方を取り入れた授業を行ってきました。 中学1年から3年間、理科の授業を受けた生徒の感想の一部を以下に紹介します。

- 自分のペースで学習することができるので、理解しづらいところにたくさん時間を使えて良かった。
- 自分で調べたり考えたりしても分からないところを友達に聞けるので良かった。たまに、友達のを丸写ししてしまうことがありましたが、それだと自分の頭にしっかり入って来ないことも理解できました。
- 効率よく学ぶことができました。自分が分からなければ友達に聞けるし、友達も分からなければ先生に聞くこともできたから。
- 先生がただ話すだけでは集中力が切れて退屈だったりするから、自分で動いて勉強できるのは 良かった。友達に助けてもらったり、逆に助けてあげたりすることで、クラスの仲も深まった のが良かった。

久

哲 也

ちょっとした哲学対話の可能性

主体的・対話的で深い学びは、確かな学力を育成する上で重要です。では、「そもそも」主体的・対話的 で深い学びとは何でしょうか。「一方で」、教育現場ではその課題も指摘されていますが、どのように解消さ れるのでしょうか。アクティブ・ラーニング型の学習方法の一つである「哲学対話」が、それらを考える参 考になるのではと考え、一つの小ネタを紹介します。その小ネタは、先ほど既に実践しました。先の文章で 用いた、「そもそも」「一方で」といったフレーズです。これらのフレーズが用いられたことで、聞き手は自 然と、より根本的で多面的な理解をしようという心づもりになったのではないでしょうか。

生徒に響くフレーズとは

もちろん、このようなフレーズは、授業で用いられるにあたっては、生徒の実態に即してその内容が吟味 されるべきです。しかしこのように、教員が、生徒により深く考えてもらうために、意識的にフレーズを活 用することには一定の教育効果があると考えます。私はこのとき、どんな態度目標を設定するかが重要であ ると思っています。何を知識として覚えてもらうかではなく、どんな態度で授業に臨んでもらいたいか、も らうべきかを思案する。私は特に、哲学的視点が導入されることを期待して、自分の授業を振り返るととも に、生徒に響くフレーズを考案しています。

個人的授業実践

自身が担当する倫理の授業で、具体的な例を挙げましょう。キリスト教の授業で、「見失った羊のたとえ」 を例に、アガペー(無差別無償の愛)を説明する際、「そもそも」99 匹の羊よりも 1 匹の羊を優先するのは 差別ではないかとして、教員が聖書の内容に異を唱えます。聖書という世界で最も読まれている書物に「そ もそも」の疑いの目を向けることで、当たり前を疑うような哲学対話が促される雰囲気が醸成されます。他 にも仏教の授業で、仏教は執着を捨てよと教える「一方で」仏になることに執着しているのではないか、仏 教は執着を捨てることに執着しているのではないかとして矛盾する点を指摘します。あえて異説を唱えるこ とで生徒の心に波紋を広げる、すると生徒たちにそもそも執着とは何なのかと考える視点が生じます。

本質を看破する力を育む

平成30年度改訂の学習指導要領では生徒が自ら「問い」を設定することが求められています。その「問い」 をより本質的なものにするためにも、教員は生徒の思考をより根本的で多面的なものにしていかなければな らないのではないかと思っています。そのための一助として、この小ネタが活かされたら幸いです。

中村夏帆

勤務する愛知県岩倉市は外国籍の住民が多く、私は外国につながる生徒への日本語指導を担当しています。 日本語指導というと挨拶やひらがなの指導をイメージされることが多いですが、市内で日本語指導を受ける 児童生徒の約8割が日本で生まれたり、幼少期に来日したりして、小学1年生から日本の義務教育を受けて いる子どもたちですので、日本語を流暢に話しますし、私が若者言葉を教えてもらうことも少なくありませ ん。すると、周囲から「日本語がペラペラ話せているのに、どうして日本語指導が必要なの?」という声が 聞こえてきます。こんな時、私は外国につながる子どもの日本語と教科を結ぶことについて話すようにして います。

日本語教室で中学3年生に社会を指導していた時のことです。首相の写真を提示すると「知ってる、テレビでよく見る!」と元気な声が聞こえてきますが、「どんな仕事をしている人ですか」と聞くと、「いつも青いネクタイだよね」「お金持ちそう」「なんか偉い人?」と自信がない様子。日本人の子どもは、ニュースを見ながら保護者の政治の愚痴を聞いたり、家族で政策について意見を交わしたり、次の首相を予想したりと、日常の生活の中で政治に触れる機会があることでしょう。だから、教科書の「行政の各部門の仕事を現場監督するのが内閣です。・・・内閣は、内閣総理大臣(首相)とその他の国務大臣によって組織されています」(「新しい社会公民」東京書籍)が理解できるのです。しかし、日本生まれ育ちの外国につながる子どもは、親子で政治について話そうとしても、意見を言える言語が、保護者は母語、子どもは日本語と異なるため会話ができません。このような環境の違いによって、同じニュースを見ていても、外国につながる子どもが得られる情報量は少なくなってしまい、中学生は知っていて当たり前とされる教科の学びを支えるための日本語が育まれていないのです。この差が、日本語を流暢に話している日本生まれ育ちの児童生徒が日本語教室で学ぶ理由です。

"内閣"や"首相"を勉強するとき、「雨が降りそうな天気のとき、体育大会をするか中止するか決めるのは誰か」という問いから「なんか偉い人」を示す日本語を考え、それを"首相"という教科の日本語と結ぶことから授業を始めました。その後で、18歳以上の日本国籍を持つ人は"選挙"をする権利があるという日本人の当たり前や日本の政治制度を生徒と調べ、理想の首相像を考えるという活動を通して、"いつも青いネクタイの人"が全国一斉休校を決定した理由が理解できるようになったのです。

私を含め、多くの教師は日本人の保護者をもち、日本の学校教育の中で育っているため、外国につながる子どもたちの困難に気がつくことは容易ではありません。その生徒の困り感の背景には何があるのかを探りながら、日本語と教科について考えていきたいと思います。

1 UD の視点を踏まえた学習環境づくり

文科省(2012)の調査によると、通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある児童生徒は 6.5 %と言われており、通常学級においても、発達障害のある児童生徒が安心して学べる環境づくりが求められています。そこで、障害のある子もない子も安心して学べる学習環境づくりの推進の一つとして、本校では全ての学年、全ての科目の授業スタイルを統一することにしました。その際、主体的・対話的で深い学びとの関連を踏まえ、一単位時間の授業設計を考えました。

2 教員間での話し合い

次の4つのことを確認しました。

- めあてや見通しをもてるようにすること
- 自分の意見をしっかりもてるようにすること
- ・友達と学び合うことができるようにすること
- 授業を振り返って自分の言葉でまとめられるようにすること

4つを実現させるために、一単位時間の授業設計を「つかむ」「学び合う」「まとめる」の3つの段階に分け、以下のように取り組むことにしました。

①つかむ段階

やってみたい、できそうだと思える魅力ある学習問題を提示し、本時のめあてをしっかりつかませ、見通 しをもたせること

②学び合う段階

自分の考えをもつ自力解決の時間とペア・グループ・全体発表を通して学びを深める時間を保障すること

③まとめる段階

本時の学習を振り返り、子どもと共にまとめること

3 子どもたちへの働きかけ

本校で取り組んでいる授業スタイルは、子どもたちのためです。子どもたちが毎時間、安心して見通しをもち、主体的に学ぶことが目的です。ですから、子どもたちにも取組の意図を分かってもらう必要があります。次のように説明しました。全ての授業で「つかむ」「学び合う」「まとめる」の段階があるんだよ。「つかむ」では、本時のめあてをつかむために、今まで習ったこととの違いを考えよう。めあてをつかんだあとは、めあて達成のための見通しを考えて、解決ができそうだと思えるようにしていこう。「学び合う」では、見通しで考えた方法を使って、自力解決に取り組むことだよ。自力解決が終わったらペアやグループで自分の考えを分かりやすく伝えたり友達の考えを聞いたりしよう。そのあとに全体に向けて発表したり質問したりしてみんなで学び合っていこう。「まとめる」では、学び合いを振り返って、めあてに対しての本時のまとめを考えていこう。

取り組みを始めて2年が経ちました。「めあてをしっかりつかめたよ。」「学び合いの時、自分の考えを伝えたいな。」「Aさんの意見いいね。」「今日は○○が大切だと分かったよ。」今日も友達と生き生きと学んでいます。

柴田深月

広島県立御調高等学校

○国際バカロレア教育について

国際バカロレア(IB)教育はジュネーブに本部を置く IB 機構が提供する国際的な視野を持つ人材の育成を目的とした教育プログラムです。

日本国内のIB 認定校等の数は161校(令和2年11月30日時点)で、国内の大学入試におけるIBの活用促進、IB 教育に対応可能な教員の養成・確保等の取組により、導入が推進されています。

○国際バカロレア教育と多様性

IB が掲げる使命は「世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけること」です。つまり、多様性を認め、そこに価値を見出すことができる人材を育成するための手立てが教育活動の随所に見られます。

○差別化した指導

IB 校の教師は、特別な支援を必要とする生徒や高い学力を有する生徒等、多様な生徒のニーズを満たし、生徒が個別に適切な学習目標を設定し達成するように、指導を「差別化(Differentiation)」することが求められます。例えば、課題のサンプルを提示する、学習方略の使用を教師が見本を見せることで促すなどの、状況に応じた足場がけや、生徒が理解を示す表現方法を選択できるようにすることが考えられます。

一般的に、生徒に課題を出す際、同じ形式で取り組ませることが多いと思います。しかし、生徒の理解の 度合いを見とることが目的であれば、表現方法は多様であっていいはずです。文章として書くことが難しく ても、口頭で話をさせるとすらすらと話すことができる生徒もいます。

IB 校の課題には教科を問わずプレゼンテーション、ディベート、レポート、ポスター、脚本、企画書等、様々な表現方法を経験させています。 その経験の中で、自分の強みや弱みに気付き、学習目標を自ら設定し学ぶうちに、次第に自らの能力や状況に適した表現方法を自分で思考し、選択できる段階まで導いている印象を受けます。

教師が行う指導の中で、生徒の選択の幅を広げることは IB 校に限らず、どの学校でも検討していく必要があるのかもしれません。生徒一人一人の「違い」を多様性として尊重される経験を学習の中にも組み込むことができれば、多様性に価値を見出す姿勢を日々の学校生活の中で涵養することにつながるのではないでしょうか。そのヒントが IB 教育には散りばめられていると感じています。

〈参考文献〉

文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム

https://ibconsortium.mext.go.jp/

国際バカロレア機構「国際バカロレア (IB) の教育とは」(2017)

国際バカロレア機構「MYP:原則から実践へ」(2018)

文京区立第三中学校

「いってらっしゃい。次は何の授業?」 「英語です。先生、今日はテストですよ。」

所属校では、通常の学級の授業に特別支援学級(知的固定学級)在籍の生徒が毎日のように参加しています。 交流及び共同学習のための支援員とともに教室に向かう生徒もいれば、生徒のみ、時にはクラスメイトと一 緒に向かう生徒もいます。入学した時から、通常の学級に自分の座席があり、通常の学級の班に入り、ホー ムルームや給食、清掃の時間を過ごします。

公立学校の特別支援学級設置校の交流及び共同学習の実施率はほぼ 100% と言われています。しかし、その実態は、様々で、すべてが充実しているとは言えないでしょう。

では、なぜ交流及び共同学習が進みにくいのでしょうか。

児童生徒の発達、情緒の安定といった個人の状態、それを受け入れる教員の理解と技量、交流学級の雰囲気、支援員の制度等の課題は、どの学校においても見られることでしょう。さらに教科の学習で行う場合は、教科の学習で求められる課題設定、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた活動の難しさ、板書量の多さ等が考えられます。

2021年1月26日に中教審から「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して~全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現~(答申)」が出されました。

ここではまず初めに「個別最適な学び」が挙げられています。これは、「個に応じた指導」つまり、学習者の視点にたって指導の個別化と学習の個性化を図るということです。通常の学級において「個に応じた指導」が取り入れられることで、一人一人が学びやすい環境になっていくことが予想されます。こうした通常の学級での実践が積み重なることで、交流及び共同学習の充実も進んでいくと考えられます。

また、同答申において、連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備も述べられています。校内においてより一層の連携を図り、学びの場の充実を図っていくことが求められます。

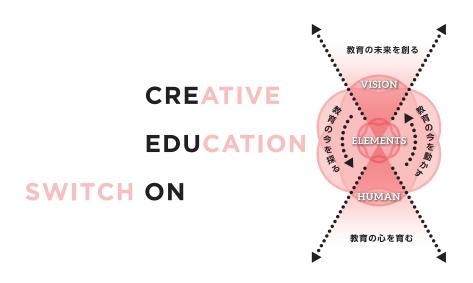
知的固定学級在籍者数が年々増加していると同時に、学級内での子どものニーズの幅の広がりにもつながっているように感じています。そのような状況の中で、今後は通常の学級の教育課程と特別の教育課程を柔軟に取り入れながら、自立や自己実現を目指すために学習者の意思で柔軟に選択できるカリキュラムがよりくみやすくなるのではないでしょうか。

※所属は執筆時点です。

「CREDUON」について

「CREDUON」(https://creduon.jp) は、東京学芸大学とジブラルタ生命保険株式会社、NPO 法人東京学芸大こども未来研究所の三者で、学校教職員を対象とした情報提供メディアを通した業務活動支援に関する研究開発の一環として、2014年11月よりスタートしました。

「CREDUON」とは creative + education + on を組み合わせた造語であり、誰もが「クリエイティブな教育マインド」を発揮できるよう、私たちはそのスイッチを「オン!」するメディアでありたい、との意味を込めました。



FOR TEACHEARS

4年目になる2017年11月に、「CREDUON」は学校教育の情報に限らず、広く教育に関わる情報を配信するwebマガジンとしてリニューアルし、それまで「CREDUON」として発信していたものは「CREDUON for TEACHERS」として継続していくことになりました。

掲載されてる内容は下記の3つのカテゴリーに分類され、約6本の原稿を毎月掲載しています。

- VISION:「教育の未来」をコンセプトとし、教育に関わる先端の情報の提供。
- ELEMENTS:コンセプトは「現場ですぐに役立つ情報」。普段の授業づくりや児童・生徒指導などの学校業務のヒントになる情報を提供。
- HUMAN:「積み重ねが人をつくる」がコンセプト。あるテーマに基づき、執筆者の背景などをうかがう内容を提供。

はじめに



今回の SEED では、2021 年度の「CREDUON」に掲載された記事の中から、特に皆様にご覧いただきたい記事を選びました。

2021年度の「CREDUON」の執筆者は、東京学芸大学教職大学院に在学中または、修了した現職の先生方が中心です。教職大学院では、学校教育についての理論と実践の往還を目指しています。現役の先生方も大学院生として、学校現場での豊富な実践経験を理論化したり、あるいは最先端の理論を実践にて具現化したりして、新たな教育の「知」を創造する研究活動を行っています。その「知」をより具体的に、わかりやすく、「言葉」にして表現したものが、2021年度の「CREDUON」の記事の特徴です。

「CREDUON」には、「VISION」「ELEMENT」「HUMAN」の3つのコーナーがあります。

「VISION」のコンセプトは「教育の未来」。特に今回は、子どもや学校の「多様性」に焦点を当てています。 どのような子どもでも「わかる・できる」授業や居心地の良い学校にしていくためのヒントが得られると思い ます。

「ELEMENT」のコンセプトは「現場ですぐに役立つ情報」。特に、「主体的、対話的で深い学び」を実現するための授業づくりのアイディアを豊富にそろえました。

「HUMAN」のコンセプトは「積み重ねが人を作る」。「この先生、面白いなあ」という魅力のある先生方に、その先生の経験や考え方、ヒストリーなどを綴っていただきました。

さて、2021年度には、もうひとつ新たな試みの種を蒔きました。それは「きくクレデュオン」です。これまで「CREDUON」は「読むもの」でしたが、「きくクレデュオン」は記事を「聴くもの」です。「学びたいけど読むのはどうも苦手」「忙しくて読む時間がない」といった方々のニーズにお応えできるものとしてスタートいたしました。通勤途中の車内でも、家事をしながらでも、仕事をしながらでも、「聴く」ことならできるかもしれません。今回お届けする SEED の記事もすべて「きくクレデュオン」に対応しています。皆様それぞれのライフスタイルの中で、「きくクレデュオン」も可愛がっていただければ幸いです。



東京学芸大学教職大学院 准教授 増田 謙太郎

Contents

はじめに		02
	VISION	
2021年4月(Vol.216)	インクルーシブ教育の実現のために 一交流及び共同学習場面からの取組一	04
5月(Vol.217)	国際バカロレア教育と多様性	05
5月(Vol.218)	子どもが見通しをもちやすい授業スタイル ―UD の視点×主体的・対話的で深い学びの実現を目指して―	06
9月(Vol.223)	日本語と教科を結ぶ	07
10月(Vol.225)	根本的で多面的な思考を促す哲学対話 ~フレーズにこだわることの可能性~	08
12月(Vol.227)	公立中学校の多様性を活かす、『学び合い』の考え方を取り入れた授業	09
	ELEMENTS	
2021年7月(Vol.128)	「できこばれ」の子どもへの支援方法	10
10月(Vol.132)	ジグソー法を活用した学習活動	11
12月(Vol.133)	「主体的・対話的で深い学び」を目指した読書教育 ~リテラチャーサークルの取り組みから~	12
2022年2月(Vol.137)	授業に参加しやすい雰囲気づくり ~アクティブラーニングを取り入れるその前に~	13
	HUMAN	
2021年8月(Vol.049)	教師を続けている理由 ~これまでにない教員像が必要な時代~	14
10月(Vol.051)	2021年の夏、「ともに」活動したわたしたち東京オリンピックボランティア	15
Archive	2021年1月~2022年3月	16
おわりに		18

表紙イラスト

正木賢一 / Kenichi Masaki

東京学芸大学 准教授 NPO 法人東京学芸大こども未来研究所 理事



